

## 令和4年度SSH探究Ⅱ中間発表会

実施日程 令和4年9月1日(木)  
担当教員 探究Ⅱ指導教員25名  
SSH委員会12名  
実施場所 本校  
至誠ホール、体育館、  
会議室、図書館、  
社会科教室、書道室  
参加生徒 1・2年生全員



### ■仮説

4月から実施した探究活動の中間報告を行い、有識者の指導助言を受けることにより、今後の探究活動における方向性が決まり、課題解決に向けての探究活動の深化が期待できる。2年生の発表生徒による相互見学に加え1年生全員が発表を見学するため、1年生にも取り組み内容が理解されるよう発表に工夫を要し、発表の楽しさや伝えることの難しさを知りプレゼンテーション能力の向上が期待できる。また、口頭発表を行わない2年生による見学もあるため、良い緊張感の中でプレゼンテーションを行う経験ができることが期待できる。見学に際して、文系理系ともに見学レポートを課すことで、生徒は両系統の視点で探究活動を検討できる。

### ■実践

理系は本校2会場で30班が日本語による発表を行った。発表と質疑応答で計10分間を1サイクルとし、これを各班4回繰り返した。また、発表を前後半の交代制とし、2年生の発表生徒による相互見学を実施した。口頭発表を行わない2年生と1年生全員が、感染対策に留意しつつ見学できるよう、見学時間についても前後半の交代制とし、各自の関心に基づいて4つの発表を選び見学した。また、今年度は文系探究Ⅱ18班が理系探究Ⅱの発表形式を踏まえポスター発表を行った。発表会に先立ち、理系探究Ⅱのポスターの蓄積を利用して文系探究Ⅱにポスター講習会を行った。見学生徒全員に、見学レポートの作成を課し、文系と理系の両方の発表を見学するように指示した。

### ■評価

文理混合でのポスター発表による中間発表会形式に改め、4年目の実践である。昨年度と同様1・2年生が全員校内にいる形での実施とした。感染対策を継続し6会場制、前後半学年交代制とした。発表生徒は、未習分野を多く抱える1年生にどう理解させるかを工夫し、また、他教科の教員からの指摘を受け、緊張感を持って初めての発表を行うことができた。昨年度に引き続きSSH事業による理系分野に加え、三菱みらい育成財団助成事業にて文系分野にも指導助言を依頼しており、発表生徒は有識者から分野を超えた指導を受け、中間報告の課題発見、今後の探究活動の深化につながった。昨年度に引き続きポスター講習会を行い、SSH事業で開発してきたノウハウを文系探究に転用することで事業効果は全校的に広がっている。その結果文系探究のポスターの内容に対する評価も高かった。また、2年生を含む見学者全員にレポートを課した。同学年からの意見も含む、レポートの評価を発表生徒に還元することで、後期の課題を明確化させることができた。